



2020年 D級審判員の目標

## D級審判員の目標

D級審判員は、公式試合（都道府県大会レベル）への参加資格が与えられる。公式試合を担当するためには、競技規則に従って試合を運営すること、および試合を運営するための基本となる技術を理解し、実践することが求められる。

また、競技規則の理解においては、競技規則試験において6割以上の正答率（C級審判員認定に必要）が求められる。

以下にD級審判員が公認審判員として理解し、実践すべき事項について記載する。

### <試合前>

- 1) 遅くとも、試合開始時刻の1時間前までに会場に到着できるように移動する。
- 2) 大会本部に挨拶をし、控室にて更衣をするなど準備をする。
- 3) トスには指定された時間に両レフェリー（およびTD）が立ち会う。メンバー表、登録証の確認を確実に行う。また、試合直前に公式記録用紙に正しく記載されているかどうか確認する。
- 4) ユニホームの確認をする。判別し難いものは着用させない。チーム役員の色についても助言する。レフェリーウェアも判別し難い色は着用しない。
- 5) ウォーミングアップを選手と共にペアで行う。
- 6) ゴール、コートやボールの点検を行う。
- 7) オフィシャル席と業務の確認を行うこと。（得点、罰則、時間の管理について）

### <試合開始時>

- 8) メンバーチェックを登録証とともに確認する。
- 9) 選手入場・挨拶の後、両チーム役員やオフィシャルと挨拶をする。

## <試合中>

### ○得点の管理 時間の管理

- 10) 得点の管理は掲示板が正しく表記されているかどうか得点のたびに厳密に行う。着地シュート等紛らわしい場合、得点が誤って追加されていないか確認する。  
また、時間の管理は試合開始時、タイムアウト時、再開時にどちらか一方のレフェリーが公示時計を必ず目視し動作確認をする。

### ○走法と位置取り

- 11) CRとGRの基本的な立ち位置や動きを意識する。  
CRは判定の後にポイントに素早く移動する。  
GRへの移動時、バックステップ走法は動きが遅く、非常に危険を伴うため用いない。
- 12) 7mスローの際、コートレフェリーはスローするプレイヤーの利き腕側に立つ。

### ○判定の手順 ジェスチャー

- 13) 判定の手順を守る。①笛 ②方向指示〔再開方法〕 ③(必要に応じ)ジェスチャー  
競技規則に記載されているジェスチャーを用いる。

### ○立ち居振る舞い

- 14) 2人のレフェリーは、同じ種類の笛を使用する。長い時間、笛を口に入れたままにならないよう気を付ける。笛を口に入れたままで、プレーを観察することがないように。

### ○役割分担

- 15) **ゴールエリアライン際の判定は、すべてゴールレフェリーが判定する。**  
16) **ピボットプレイヤーの観察は、コートレフェリー、ゴールレフェリーで連携する。**

### ○競技規則の正しい運用

- 17) **警告、退場を判定する際は、その理由をボディランゲージで大きく示す。**  
18) 指し違えたときは、必ずタイムアウトをとり2人で協議する。

## <試合終了後>

- 19) 試合終了の挨拶（両チーム役員・オフィシャル）をして、公式記録用紙に正しく記載されているのを確認後サインする。
- 20) 大会審判長や他のレフェリーに助言を求める。審判手帳に記載する。  
審判長に捺印をお願いする。